

6/17・18



「旅色」に松江市の情報が掲載！

全国の旅情報を紹介する月刊電子雑誌「旅色」の撮影が市内各所で行われ、俳優の溝端淳平さんが松江城や小泉八雲記念館などの歴史巡りや美保関町北浦でのSUPを体験し、本市の魅力を発信してくれました。

今回撮影された写真などは、「旅色」で7月16日より1年間、無料でご覧いただけます。



〈旅色FOCAL〉

松江まちかど ダイアリー

8/3・4



松江水郷祭 湖上花火大会 開催！

湖上花火の前に、水郷祭では初となるドローンショーが上映されました。機体の数は、なんと500機！過去最多となる2日間合計21,000発の花火とともに夜空と宍道湖湖上を彩り、観客を魅了しました。

市報

松江

目次

- 02 2024年 小泉八雲 Memorial Year
- 04 松江まちかどダイアリー
- 05 松江市長 上定昭仁の「上を向いていこう」／町自連だより
- 06 食べごろ松江／シリーズ松江の文化力×未来
- 07 松江の皆さんこんにちは。／マイルレポート
- 08 10月から児童手当の制度が変わります／給付金の申請はお済みですか？
- 09 65歳以上の人の高齢者インフルエンザワクチン・新型コロナウイルスの定期接種が始まります
- 10 コミュニティバスの運行が始まります
- 11 路線バスの10月1日ダイヤ改正について
- 12 「松江市自死予防運動」を実施中です
- 13 9月は健康増進普及月間です／自覚症状のないあなたこそ「がん検診」
- 14 9月20日～26日は動物愛護週間です！／9月24日～30日は結核予防週間
- 15 9月は世界アルツハイマー月間です／9月10日は「下水道の日」です
- 16 子育て・健康・福祉
- 18 中海・宍道湖・大山圏域市長会通信／新幹線整備に向けた国要望を行いました
- 19 情報ひろば
- 26 でかけてごしない～イベント情報～

松江市ホームページ



防災メールに登録しましょう。
QRコードを読み取って、
空メールを送ってください。



商標について：QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

松江市長 上定 昭仁の

上を向いていこう

Vol.38



「今年は『小泉八雲 イヤー』です」

2024年は、小泉八雲が執筆した「怪談」の初版発行から120年、かつ八雲没後120年の節目の年に当たります。これを記念する「メモリアル・イヤー」を盛り上げるため、統一ロゴマーク「KWAI DANI 20」を制作し、イベント開催や商品販売に合わせて使用することでPRしています。

また、今年は、例年開催している「朗読のしらべ」「青少年スピーチコンテスト」「スーパードンさん講座」などに加えて、「メモリアル・イヤー」ならではのイベントに取り組んでいるところではあります。

八雲の作品をモチーフにしたスイーツや、おちよこ・おつまみと日本酒のセットを「怪談グルメ」と銘打って開発・販売しているほか、サンラポーむらくもでは、八雲と妻のセツが好んだ食材を使ったコース料理「**拝啓、小泉八雲、セツ様**」の提供を始めました。

さらに、八雲やその作品を題材にした企画を市民のみなさんに公募し、その中から厳選した5件のイベントを開催しますのをご期待ください！

現在、**小泉八雲記念館**では、小泉セツにスポットを当てた企画展を開催していますが、八雲

の命日である9月26日から1週間、松江市民のみなさんの入館料を無料にします（入館時に、現住所が確認できる免許証などの提示をお願いします）。この機会にぜひお訪ねください。
来秋には、セツをモデルにした、NHKの連続テレビ小説「**ばけばけ**」の放送がスタートします。「メモリアル・イヤー」や「ばけばけ」を一過性のものにせず、八雲を顕彰する機運を高め継続できるよう、みなさん応援してまいりましょう！



〈小泉八雲づくしの「怪談グルメ」〉

左から：第1弾のスイーツ企画「かっぱふえ」（風流堂）と「雪女プレート」（彩雲堂）
第2弾の日本酒企画「怪談おちよこで楽しむ八雲の思い出酒」（米田酒造）

町自連だより

「きらりとひかる」

まちをめざして

美保関町自治連合会

会長 大西 高志

令和3年度から取り組んできた「きらりとひかるまちをめざそう」を基本理念としたまちづくり計画がこの度まとまりました。

この計画は、5年後・10年後も持続可能な地域づくりのための地域活動の取り組みをそれぞれの自治会で策定するとともに、町全体としてさまざまな地域課題に取り組む体制の整備など、人と人とのつながりを大切に、地域で支えあう「地域力」を高めてみんなが安心して笑顔で暮らせるまちをめざすものです。

令和4年8月31日の山陰中央新報に、30年後の美保関町の人口が1644人（令和6年6月末4334人）になるとの推計結果が掲載されましたが、それぞれの地域で「きらりとひかる」活動が展開され、町全体が「きらり」と光れば人口推計結果を覆せるかもしれません。

後ろ向きにならず、前を向いて進もう。美保関！



〈片江で開催された「めのはフェス」の様子〉



食べごろ松江

くまつえ旬もの食べてござい

vol.3



イカの王様「アオリイカ」

日本海に面する本市の沖合は、温暖な海流が流れる好漁場となっており、さまざまな魚類が漁獲されています。

年間を通じて旬を迎える魚介類がありますが、特に「イカ」は、その時期ごとに旬を迎える種類があり、市内の鮮魚コーナーでも目にするの多い馴染みのある魚介のひとつです。冬から春先まではヤリイカ、春から梅雨頃まではアオリイカ、夏にはケンサキイカ（通称：マイカ、シロイカ）やスルメイカ、秋には再びアオリイカが主に水揚げされます。今回は、これから秋が深まるにつれて旬を迎える、「イカの王様」とも言われる「アオリイカ」を紹介しましょう。

アオリイカは、夏頃に沿岸近くで生まれ、秋に成長し、冬には深場に移動します。春になり大型になったアオリイカは、産卵のため接岸し、産卵を終えて1年の生涯を終えます。そのため、春に漁獲されるアオリイカは大型で、秋に漁獲されるアオリイカは、「新子」と呼ばれる小〜中型が多くなります。アオリイカ



秋の旬を迎えるアオリイカ。釣りのターゲットとしても人気があります。

おすすめ逸品



新鮮な地物は刺身がおすすめですが、さまざまな料理で主役になります。



定置網で漁獲されたアオリイカ。水揚げされたイカは、すぐに箱詰めされ、新鮮な状態で近隣の市場へ出荷されます。

写真提供：笠浦大敷網漁業株式会社

【この記事に関する問い合わせ】産業経済部水産振興課 ☎ 55-5636

シリーズ「松江の文化力×未来」

松江の文化力の次世代を担う人を紹介します！

Vol.16



おか えい すけ
岡 英 介

松江市出身・市内在住。
県外の大学を卒業後、松江市に戻り、市内の和菓子屋「三英堂」の4代目に就任。和菓子屋を経営しながら、茶の湯文化を次世代へ継承する活動を行っている。

茶の湯文化を伝える

私は、昭和4年から続く市内の和菓子屋「三英堂」の4代目社長をしています。今年度はご縁あって、島根大学の学生を対象とした課外授業で、和菓子に関する講義を行っています。2年前にスタートしたこの講義は、今までテーマを設定してお菓子を作り、それをイベントや催事で販売する内容で行われていました。今年度は私が担当させていただくにあたり、今までの取り組みとは違ったものにできないかという想いがあったため、今回は主に商品開発のプロセスについて、学生たちと一緒に考える内容で展開しています。講義では、単純に可愛い和菓子を作るのではなく、コストや採算性、実現可能性などの生々しい部分を大切にしたい、学生たちが社会に出たときに役に立つような考え方を養ってほしいと思っています。毎回の講義で学生たちと議論をする中で、さまざまなアイデアが出ますが、みんなが納得する方向へまとめていくことに難しさを感じています。ただそれ以上



〈講義を行う岡さん〉

に、自分が持っていない知識や発想や視点を学生が持っていることに、驚きと面白さを感じています。自身の成長にもつながっています。和菓子を購入されるのは主に50代以上の人ですが、和菓子の文化を次世代へ継承していくためには、若いうちに和菓子を「知り」、「手に取る」ことが大切だと考えています。この講義が、和菓子を知り、松江の茶の湯文化への理解を深めるきっかけになればと思っています。また、学生たちが今後松江を離れたとしても、和菓子を通じて関わりが持ち続けられるように、これからも松江の大切な文化の一つである「茶の湯文化」を守り、伝えていきたいです。

【問い合わせ】文化振興課 ☎ 55-5517

松江の皆さん こんにちは。



こう 鋼
あり た 有田

昭和27年栄町生まれ。雑賀小、四中、松江工業、大阪の大学を卒業後、京都信用金庫を経て大阪府四條畷市商工会で経営指導員、事務局長を務め定年退職。現在、大阪市内の労働基準監督署勤務。近畿松江会幹事(近畿松江工窓会推薦)。大阪市在住。

ピーヒャラ ピーヒャラ
ドンドン ドンドン ドンドン
数年前の10月中旬の夜、私は、

琴が、日中力強い音を町全体に響き渡らせていました。私が琴をたたくのを覚えたのがこの頃のことです。

松江しんじ湖温泉のホテルでの会合を終え松江駅前の宿泊先へ向かっていました。途中、遠回りしてみたくなりNHK松江放送局の前を通り、そこから嫁島橋を渡り堅町の方面へと向かいました。ほどなくして聞こえてきたのが冒頭の笛と琴の音でした。子供の頃に親しんだその音に引き込まれ、急ぎその元へと向かいました。そして、堅町の某銀行の玄関前に行き着きそこに据えられた照明の下、数人の大人と子供達との「琴行列」の練習風景が目に入ってきました。私は、少し離れた場所からしばらくの時間、その風景に見入っていました。

そして11月3日の「文化の日」には、市内の各町が交替で「琴行列」に参加していました。参加する年には、背中に(※)と染められた蒔絵の濃紺のハッピに、水色の鉢巻をした大人と子供とが屋根付きの琴台を曳き、笛と琴とで賑やかに堅町、天神町、白濁本町を経由して松江大橋を渡り、松江城の大手前広場まで練り歩くのですが、子供にとってこの距離が結構キツく、着くやいなやヘトヘトになって石垣の側に座り込んでしまったことを思い出します。

私が生まれて育った町にも琴があり昭和30年代にさかのぼりますが、毎年春か秋のお彼岸に琴庫から出され組み立てられた

私の関西での生活は50年を越えましたが、ふるさと松江を忘れたことはありません。これからも伝統行事が守られ伝承されることを願い、ささやかですがふるさと納税などでも応援しています。

近畿松江会にご入会ご希望の人はご連絡ください。

〒543-0014 大阪市天王寺区玉造元町2-34 東洋軒ビル4階 竹谷設計事務所内 近畿松江会事務局 ☎090-3054-9159 (竹谷)

まちをよくする マイルレポート

あなたたちと共に

松江市交通指導員

かねつき
金築 育代

民生児童委員として、挨拶運動をはじめて17年、毎朝見守りをするようになって7年です。横断歩道でも止まってくれない車に手を焼いていました。そこで思いました。制服を着て正式な指導を受けたらより良い方向になるのでは！と交通指導員に志願したのです。

私が立つ場所は変則的な四叉路になっていて、結構神経を使います。が、行き交う100人以上の人々全員と挨拶を交わすのが励みになっています。小学生のお子さんたちには挨拶はもちろんのこと、「手をまっすぐ上げて！運転手さんの顔を見て」と毎朝言います。車が渋滞したときには、車の誘導もしながら、自転車通学の生徒さんを誘導します。怖いのは、車の陰になっっている対向車ですから。

毎朝立たれる先輩に以前お話ししたことがあります。「毎朝なんて。主婦は朝忙しいのに、よくされますねえ」と。自分がやり始めて分かりました。毎朝立たずにはおれない気持ち。自分がいなかったら、この子たちは車が通り過ぎるのをいつまでも待つしかない、飛び出す車にひかれるかも知れない、などなど。

やかましいおばちゃんだけれど、お子さんたちの命がかかっています。朝の会議に出る多忙な時もあるけれど自分自身の体調管理もしながら、これからもあなたたちと共に頑張っていきますね。



〈活動風景〉



〈研修風景〉